

山口県医師会報

発行所 山口県医師会
〒 753-0811 山口市大字吉敷 3325-1
083-922-2510
編集発行人 藤井康宏
印刷所 大村印刷株式会社
定価 220 円 (会員は会費に含め徴収)

平成 14 年 4 月 11 日号

1640



夜桜

岡崎正道 撮

新役員プロフィール	304
郡市医師会生涯教育担当理事協議会	307
都道府県医師会共同利用施設担当理事連絡協議会	310
第 31 回山口県消化器がん検診講習会	312
理事会	316

日医 F A X ニュースから	309
会員の動き	318
お知らせ・ご案内	320

ホームページ <http://www.yamaguchi.med.or.jp>
メールアドレス info@yamaguchi.med.or.jp

新役員プロフィール

- 新しく役員になられた先生方をご紹介します -



いのうえゆうじ
井上裕二 理事

広報・医療情報システム・生涯教育・
勤務医、地域医療（救急災害医
療システム）担当

山口大学医師会

医療情報

51 歳

これを書くためにこれまでの新理事プロフィールを読ませていただきました。それぞれ、おつきあいの長い旧知の方が一線の臨床医としての素晴らしい経歴を様々なユーモアとウィットに富む文章で紹介されております。医師会のメンバーは開業医の先生方が多く、井上裕二先生のような大学でしかも医療の第一線というよりその支援部門で従事している方が理事になれるのは珍しいのではないかと考えております。井上先生の現職は山口大学医学部附属病院の医療情報部長です。おそらく、医療情報部というのは何をしているのかと思われている方も多いと思います。具体的に述べますと、病院情報システム（医事会計、オーダリング、将来的には電子カルテなど）の設計、運用のとりまとめや病院、医学部内の情報環境の整備、維持、さらには、診療から生み出されるさまざまな情報を抽出し加工することで診療、研究、教育、病院経営などに役立つ情報を提供する部門です。オーダリングシステムなどは現在では病院のライフラインとも言えるもので、その運用管理は非常に重要となっております。

井上先生は、1975年に山口大学医学部を卒業

され、奈良県の天理よろず相談所病院でレジデントの研修を受けてから主として臨床検査の仕事をした後、京都大学医療情報部に移り現在の活動の基盤となる研究をされました。1989年に当医療情報部副部長として着任し、1993年～95年にかけて世界でも屈指の医療コンプレックスであるテキサスメディカルセンター（アメリカ、ヒューストン）のベイラー医科大学に医療情報部助教授として留学されました。この間、メディカルセンター内の情報システムについての研究や医学判断学の研究などをされ、帰国後は、病院内はもちろん、病院外、すなわち地域での情報環境づくりにも関与されました。その頃の話、大学時代の友人である小野田市医師会の瀬戸信夫先生は、「井上はひどい奴だ。アメリカから帰ってくるなり嫌だ、嫌だというのに無理やりコンピュータにネットワークを接続して、このとんでもない世界に巻き込みやがった。」と話されています。この「とんでもない世界」が今でこそ非常にポピュラーなインターネットなどの情報の世界で、それ以後、瀬戸先生もご自分の病院内のみならず、小野田市医師会内、さらには小野田地区の情報化に奔走し

ておられます。診療の傍らこのような活動を続けるのは大変な事であり、それが「とんでもない」ことであったわけです。

井上先生の地域の情報化についての関与は、宇部・小野田地区から県全域へと拡大し、山口健康福祉ネットワーク（Yamaguchi Health and Welfare Networking：略称 わいほーネット）に至っております。これは、県や医師会、大学、民間の通信事業者やベンダーを加えた官、民、学の共同事業で、IT 技術を用いての病診連携や画像、病理の遠隔診断、あるいはコンサルテーションなど、大学や地域医療機関がそれぞれの可能な診療支援を行うことで、県全域がひとつのバーチャルな病院を構成するようなシステムを目指したものです。それにより、多くの先生のご協力、ご支援のもとに二次医療圏を越えた医療連携も含め、地域格差の解消、さらには医療と保健、福祉の間のシームレスな連携の実現に向けた活動がなされております。今回の理事就任はこれらの活動の発展

が期待されたものと考えております。

昨年末に発表された厚生労働省の「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン」では、平成 18 年度までに 400 床以上の病院や全診療所の 60% に電子カルテを導入することが打ち出され、また、地域における医療情報の共有も実運用に向けた各種の支援がなされております。このような今後の医療の IT 化の発展に井上先生のこれまでの経験が貢献できるものと思っております。

医師会におきまして井上先生は異種な存在であると思いますが、その面で非常に貴重な存在とも思われます。山口県医師会の発展、さらには、山口県の医療の発展に井上先生が少しでも貢献できますよう会員の皆様の暖かなご支援を賜りたくお願い申し上げます。

山大附属病院医療情報部 石田 博記



にしむらこういち

西村公一 理事

医事紛争、診療情報、妊産婦・
乳幼児保健、医療保険担当

小野田市医師会

内科

52 歳

初代院長が高千帆町長も務めた、「神田（じんで）の西村内科」の 3 代目である。

島根医大の消化器内科講師を務めて、バイパス沿いに西村医院を開業。地域の医師や患者さんから絶大なる信頼をうけ、多くの訪問診療もこなし、大変多忙である。小野田の医療情報システムの大黒柱でもある。丘の上の旧院跡地はこの 4 月からケアハウスに衣替え。

一言で言えばリーダーシップに富んだ、男にもてるお祭り好きで、医者にしておくのはもったいないような男。ならば何にすればいいのかと問

われると困るが、以下少し補足してみなさんに答えを考えていただければ。

晴れ男を自認している。最近は「晴れて暑すぎる」と文句を言えば雲を呼んできたり、朝方には大雨を降らせておいて現地に着くとぴたりと晴れさせるなど、芸が細かくなってきた。

宇部高コーラス部全国優勝の立役者であり、岡大時代にはジャズスナックのマスターもどきをやったり、いまでも請われればプロ顔負けの演歌を披露する。県医師会でも東先生に次いで声がよく通るだ

ろう。

酒には目が無く、集まりにはうまい酒を下げたふらりと現れる。いくら酔っぱらってさわいでも 12 時前にはぴたりとタクシーを呼んでくれるので、彼と一緒に安心して飲み過ぎてしまう。その一方彼があんまりママや店の女の子にもてるので、私は少しいじけている。

ゴルフ、スキー、テニス、釣りその他万能のスポーツ好きで、ゴルフではわれわれのお小遣いが相当西村銀行に貯金してある。70 台も出すが時には大たたきもし、利息を付けて返してくれるのが良いところ。彼が医師会コンペでホールインワンをしたときに、一緒に回っておられた先代が小躍りして喜ばれた姿はいまでも目に焼き付いている。

ご両親共にお元気であるが、先日短期入院をされたときの彼の献身ぶりは大変なものであった。奥様と二男一女を愛し、家族旅行などのサービスもおさおさ怠りない。こまめな面もあり、時々庭の草を引いている姿を目撃する。私はいつも家人から彼と比べられ、多大な迷惑を被っている。困ったことである。

生まれもっての名幹事である。幹事だけでなく、何をやっても涼しい顔で楽々とこなしてしまうので、市医師会では訪問看護ステーションの立ち上げを始め、難しい仕事は自然に彼に集まってしまう。よく気が回る反面、外科医も驚く豪快な性格

も持ち合わせ、行き詰まった場の雰囲気を読みほぐす名人でもある。言うべき時にはズバリと大局観に立った正論を吐く。めったに怒らないが、本当に怒った時にも人を傷つけることがないのは彼の徳。

No といわない男気とリーダーシップから、多くの組織の会長や理事を引き受けており、また選挙の季節になるとお祭り好きの気性と DNA が騒ぎ出したりする。われわれ凡人から見ると、本業、ケアハウス開設、医師会理事の仕事、そして寸暇をひねり出しての遊びなど、超多忙な男にどうしてあんな事ができるのかと不思議でならないが、これが能力の違いということかと納得もしている。

この度小野田市医師会の心意気をもって、小野田に無くてはならない人材である「公ちゃん」を県に供出する。本人は「新たな勉強をさせていただく」と殊勝なことを言っているが、きっと一暴れをしてくれるものと楽しみにしている。

以上、社交辞令抜きに書いてきて読み返すと、まさにスーパーマンとはこういう男だという気がしてきた。さて、西村公一 52 歳を医者以外の仕事に就かせるとしたら、何が適任か・・・。

小野田市医師会 瀬戸信夫記

やまぎん スーパー 変動金利定期預金

やまぎんスーパー変動金利定期預金はお預け入れ日から6か月ごとに金利が変動する個人専用の定期預金です。

預け入れ期間が長ければ長いほど上乗せ利率が高くなります。

6か月ごとのお利息も複利で運用できます。

くわしくは、窓口でおたずねください。



山口銀行

平成 13 年度 郡市医師会生涯教育担当理事協議会

と き 3月7日(木)

ところ 県医師会館

藤井山口県医師会長挨拶

生涯教育活動は、県医師会、日本医師会にとっても重点的な事業であるが、最近の参加者の動向をみると、生涯教育も一つの曲り角に来ていると言える。その反面、郡市においては、皆様方のご尽力により、生涯教育活動が非常に活発に行われている。これからも、事業の活性化についてご協力いただくと共に、生涯教育活動のあり方について、十分ご討議いただきたい。

◇報告・協議◇

I 都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会報告(三浦理事)

坪井日本医師会長挨拶

生涯教育という事業は、なかなか報われることが少ない事業であるが、より良い医師と患者の関係確立のためには、その継続が必要である。

平成 12 年の 4 月に日医は医の倫理綱領を作成

し、かつ実践していこうと計画した。その第一条に、「医師は生涯学習の精神を保ち、常に医学の知識と技術の修得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす」とある。なにをやっているかわからない医療制度改革の中で、われわれはプロフェッショナルフリーダムを守りぬくために戦っていかなければならないと思っている。国民の医療を守るために、日本の医師の心得るべき根幹である生涯教育の問題について、お集まりの担当理事の先生方に十分にご討議いただきたい。

1 報告事項

(1) 平成 12 年度日医生涯教育制度申告集計結果について(櫻井常任理事)

平成 12 年度の申告者総数は 111,184 人で、そのうち日医会員申告者は 102,851 人であった。「一括申告」方式を実施した医師会は 38 都道府県であった。全体の申告率は 66.8% であり、平成 7 年より連続して申告率は上昇し、制度発足当時のレベルを上回り、過去最高であった。

(2) 生涯教育関連報告事項(櫻井常任理事)

平成 13 年度日医生涯教育制度申告のお願い

平成 12 年度と同様に申告に対してご協力いただきたい。

出席者

大島郡	吉岡嘉明	宇部市	福田信二	柳井	守田知明
玖珂郡	松原宏	山口市	中山富蔵	長門市	川上俊文
熊毛郡	田尻三昭	萩市	市原隆	美祢市	野間史仁
吉南	清水良一	徳山	林田重昭	山口大学	坂部武史
厚狭郡	谷川秀也	防府	松崎圭祐	県医師会	
美祢郡	東光生	下松	中島洋二	会長	藤井康宏
阿武郡	藤原弘	岩国市	藤本俊文	常任理事	上田尚紀
豊浦郡	藤本繁樹	小野田市	矢賀健		小田達郎
下関市	長岡栄	光市	山本憲男	理事	三浦修

平成 14 年度日本医師会生涯教育制度実施について

多少カリキュラムが変更された部分もあるが、平成 13 年度と同様に「日本医師会生涯教育制度実施要項」を参考に、実施していただきたい。

(3) 生涯教育推進委員会活動報告（橋本委員長）

自己申告率のさらなる向上とその維持

自己学習推進のための戦略

・日医雑誌読後「ハガキ回答」

・ニューメディアを利用した生涯学習

生涯教育カリキュラム「医学的課題」の改訂

・専門医への紹介と事後の対応

新しい診療理念に対応するための生涯教育

・知っておくべき新しい診療理念

病診連携による生涯教育

リカレント教育としての生涯教育

日医生涯教育制度に関するアンケート調査

現在、医師養成のどの段階でも改善が進められている。医学部においてのコアカリキュラムの実施や、臨床実習実施前の教養試験の導入、国家試験での実地試験の実施などであるが、このような中、医師免許取得後の資格を持ったわれわれ医師の生涯教育も、いろいろな波が押し寄せてくるのは必至であろう。われわれは、国民に常に質の高い医療を提供するために、優れた臨床能力を維持する努力をする必要があり、そこに生涯教育の真の意義がある。

(4) その他

平成 14 年度から、「はがき回答」をインターネットで行うことができるように計画している。

また、「インターネット生涯教育講座」を企画し、デジタル化して、動画、イラスト、文字テキスト、音声などを組み合わせて、教育効果が高く、双方向性のある教材を提供する予定である。

その後、インターネットを利用した生涯教育のデモンストレーションが行われた。

2 都道府県医師会生涯教育活動事例報告

(1) 滋賀県医師会（折田雄一常任理事）

「生涯教育からみえてくるもの」と題して、滋賀県における生涯教育活動の取り組みを報告した。その中で、医師としての基本能力を高めることを目的とした基本的医療課題こそ医師会の役割

と述べた。

(2) 北海道医師会（小柳知彦常任理事）

『日本医師会生涯教育講座「集中コース」、自宅学習評価事業（はがき回答）の取組について』と題して、20 年間の「集中コース」の実績の報告と、北海道における「はがき回答」自宅学習評価事業の試行についての報告があった。

平成 13 年度生涯教育制度申告について、山口県医師会でも「一括申告」方式としているが、具体的には本会・郡市医師会・関係団体や医会への出席報告を取りまとめて、所定の表に PC 入力の上、FD で本会へご送付いただきたい。

会員から郡市医師会への提出を 4 月中旬まで、郡市医師会から本会への提出を 5 月 31 日まで、本会から日医への提出を 6 月末までとしているのでご協力いただきたい。

II 平成 14 年度山口県医師会生涯教育事業計画について（上田常任理事）

1 生涯研修セミナーについて

平成 14 年度の生涯研修セミナーについて、すでに決定しているもの、これから具体的に内容を詰めていくものなどについて説明した。これまでの「がんシリーズ」にかえて、「生活習慣病シリーズ」と「先端医療」を取り上げ、講演やシンポジウムを予定する。この中で、一つの試みとして、11 月 10 日の生涯研修セミナーを、下関市医師会のご協力を得て、下関シーモールホールで行う予定にしている。これは、開催場所を変えることで、今まで参加できにくかった遠方の先生方にもご参加いただきたいという主旨である。

2 体験学習について

本年度は、山口大学の主催で、脳神経外科と放射線科の体験学習を行ったが、平成 14 年度も山口大学の主催で、数回の体験学習をお願いしている。

3 その他

今年度も山口大学の新人医局員のオリエンテーションを予定している。

Ⅲ 山口県医学会総会について

1 第 85 回山口県医学会総会について（柳井医師会引受）

6 月 16 日に「サンビームやない」で開催予定であり、市民公開講座も予定している。駐車場も十分確保しているので、多くの皆様のご参加をお願いしたい。

2 第 86 回山口県医学会総会について（平成 15 年度）

下関市医師会の引き受けの内諾を頂戴した。

3 その他

各都市担当理事から生涯教育活動について、セミナー参加者数を増やすためのテーマの選択や、都市医師会として特色ある生涯教育活動の報告など、活発なご意見を頂戴した。

報告：理事 三浦 修

日医 FAX ニュース から

3 月 19 日

医療保険制度に全力で取り組む 坂口厚労相
救急救命士の業務範囲を検討 坂口厚労相
再診料の逓減制一部見直し 厚労省
後発品使用の算定要件を説明 厚労省
条件付きで他科受診も初・再診料算定可能に 厚労省
会長選に西祥太郎・元京都府医副会長が立候補

3 月 22 日

気管内挿管問題で見解 坂口厚労相
国公立病院は救急医療に積極的取り組みを 坂口厚労相
救急救命士の業務範囲見直しを検討 自民党・WT
触法精神障害者の処遇法案を閣議決定 政府
診療報酬改定内容で、月内逓減制について質問 宮崎参院議員
再診料の月内逓減制は医療行為の濃淡を評価 厚労省・松谷医療課長
誤りなき医療構造改革に向け講演 武見参院議員

3 月 26 日

医療経営への「株式会社方式」導入は削除へ
医薬分業には政策誘導の必要なし 菅谷常任理事
後発品の使用で代替調剤のあり方を検討 坂口厚労相
厚労省が医薬分業に見解
卒後臨床研修必修化に向け取りまとめ作業へ

平成 13 年度 都道府県医師会 共同利用施設担当理事連絡協議会

と き 2月27日(水)

ところ 日本医師会館

坪井日医会長挨拶

本日は、共同利用施設に関する体験を聞き、問題点を検討していきたいが、いま医療環境は、共同利用施設に限らず大変複雑な状況に置かれている。政府は、三方一両損とか痛み分けなどと言っているが、痛みを医師だけに押し付けることは止めなければならないし、また国民が困るような医療制度になってもいけない。さらにこの先には、医療構造改革の検討が待っている。日本医師会としては、医師会共同利用施設を中心に押しすすめている医療が、あるいは先生方の毎日毎日の医療が、国民のために十分機能を発揮できるよう努力しているところである。本日の会議が、先生方にとって、国民の医療の向上にとっても役に立つよう期待します。

1 医師会共同利用施設を巡る最近の動向 日本医師会常任理事 西島英利

都道府県別医師会共同利用施設設立状況では、医師会病院が 81、健診センターが 42、検査センターが 64、健診・検査センター複合体が 86 などとなっている。また、ホームヘルパーステーションも 48 と増加している。平成 14 年 2 月現在、全国 38 の地域医療支援病院のうち 23 病院が医師会病院である。他の医師会病院も、今後地域医療支援病院として運営していただけるようご努力いただきたく、日医としてもできるだけ、協力していけるように考えている。

坪井会長からの諮問事項、「新しい高齢者医療制度と介護保険制度の整合性、介護保険制度

施行に伴う課題の把握と解決」について、介護保険委員会は「高齢者の医療と介護のための制度構築のあり方」として答申を取り纏め、国の政策に反映できるよう働きかけていく。

また本年は、全国医師会共同利用施設総会の年であり、平成 14 年 9 月 7～8 日、埼玉県大宮市、大宮ソニックシティで開催される予定である。7 日は各分科会、8 日は 3 コースに分かれ共同利用施設見学会が行われる。

2 医師会共同利用施設の運営状況等についての事例報告

① 焼津市医師会における在宅看護支援事業の実施状況（焼津市医師会会長 篠原 彰）

人口 12 万の焼津市は、高齢化率 17.7% で、2322 人の要介護・支援認定者がいて（65 歳以上の 10.9%）、うち 1863 人のサービス受給者（80.2%）がいる。共同利用施設の組織としては、健診検査事業部、在宅支援事業部（在宅介護支援センター・居宅介護支援センター・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション）からなっている。居宅介護支援事業所数は 19 であり、訪問サービス事業における当事業所の利用割合は、訪問介護で 28%、訪問看護で 58%、居宅介護支援で 22% であった。

各事業における評価と課題では、在宅介護支援センターでは、介護予防・生活支援の拠点としての役割は大きいですが、運営費補助金が減額され、職員 1 名体制では在宅支援事業の遂行は困難で、自治体と交渉し、市単独の運営補助費の増額を検討中である。居宅介護支援事業所では、現状の報酬では採算が難しく、専任の介護支援専門員でも、ケアプラン作成件数は 70 件が限界であり、またとくに福祉系ケアマネージャーに対する医療に関する研修が必要であることから、医師会の介護支

援専門員が、地域の中でリーダーシップを取っていかねばならない。在宅看護事業では、収支実績は徐々に改善されつつあるが、1時間未満の利用者が多いことが最大の課題であり、今後、介護支援専門員、在宅介護との連携を緊密にする必要がある。在宅介護事業では、身体介護が中心となっているため、利用者数、利用回数、収支状況ともに順調である。非常勤者でも研修は必須であり、在宅介護サービス計画マニュアルの作成も必要である。

② 北九州市小倉医師会の健診・検査センターの運営状況（福岡県医師会副会長 合馬 紘）

北九州市小倉医師会は、会員数 719 名であり、共同利用施設事業としては、健診センター・臨床検査センター・高齢社会事業などがある。健診センターはかかりつけ医支援と地域の健康づくりの拠点として活動しているが、人件費比率が高いこと、健診車を含めた検査機器が高額なこと、民間健診センターとの競合などの問題があり、今後ともさらに、会員の診療を支援すること、地域の健康づくりの拠点化としてかかりつけ医と一体的な健康保健活動を展開すること、情報ネットワークの構築を行うことなどが課題とされる。臨床検査センターにも同様に民間企業との競争などの問題があり、今後ともさらに会員による利用率を高め、経営の効率化・合理化を図り、営業活動を活発にし、検査精度を高めるなどの対策を講じていく。

③ 医師会病院の経営分析（九州地区を中心に） （日本医師会総合政策研究機構主席研究員 川越 雅弘）

九州地区の 20 医師会病院（うち地域医療支援病院 3）を、1995 年から 1999 年までの 5 年間のデータで経営分析を行った。

平均売上高（医業収益）は 22 億 3600 万円であり、半数以上の病院が 10 億円から 20 億円の間に位置していた。売上高は、過去 5 年間増加傾向であり、とくに地域医療支援病院の売上高の伸びが目立つ。収益性（売上高経常利益率）をみても地域医療支援病院は高位安定である。安定性（借入金依存度）については、地域医療支援病院は、その他の病院に比べて借入金依存度が低く、かつ

さらに低下傾向にあった。効率性（総資本回転率）を見ると、地域医療支援病院の総資本回転率はいずれも 1 回を越えていて、資本に見合った売上高が上がっているといえる。生産性（1床当たり売上高）についてみると、1999 年には、平均で地域医療支援病院 1570 万円、その他の病院で 840 万円であった。

以上から、地域医療支援病院は、その役割・機能を発揮して売上高（医業収益）を伸ばして、利益も比較的堅調であり、効率性・生産性、さらには安全性も高いという実態が明らかになった。今後、医師会病院が、安定した経営に支えられて、継続的に地域に医療を提供していくためには、たとえば地域医療支援病院など、特徴ある役割・機能を果たしていくことが望まれよう。

総括（石川副会長）

大きな課題を含む医療構造改革や、新たに制定されようとしている健康増進法の行方を注視するなど、日医としても正しい方向となるよう努力するが、地域医師会としても地域医療支援病院への取り組みなど、地域での活動に積極的に取り組んでいただきたい。

報告：理事 三浦 修

第 31 回山口県消化器がん検診講習会

と き 3月9日(土)

ところ 県医師会館

1 会長あいさつ

(山口県消化器がん検診研究会会長 中村克衛)

近年の検診事業がうまくいっているかどうか、なかなか様子がつかめませんが、次の河村先生が報告されますので、それからうかがい知ることができますでしょう。

この検診の精度向上が求められておりますが、特に、大腸癌の便潜血反応や、検診に関することなどにいろいろ問題もあり、さらに努力することが多々あります。今回の役員会で検討されましたが、次年度は恒例の11月と3月の講習会のほかに、臨時に実際的なレントゲン撮影の問題などを含めた講習会を、夏ごろに小郡あたりで開催しようかと考えております。その際には、また多くの方のご出席をお願いいたします。

◇教育講座◇

「平成 12 年度山口県胃がん・大腸がん検診の現状と課題」

山口県成人病検診管理指導協議会
大腸がん部会長・胃がん部会委員
山口県消化器がん検診研究会副会長

河村 奨

1 人口動態について

山口県の高齢化が全国を上回るペースで進展するなか、悪性新生物、脳血管疾病、心疾患の三大成人病による死亡は、平成 11 年度においては県民の総死亡率の約 6 割を占めるまでに至っている。

中でも悪性新生物は、総死亡率の約 3 割を占め、

健康を増進し発病を予防する一次予防に加え、病気を早期に発見し早期に治療する二次予防が重要な課題になっている。

2 胃がん検診の現状について

平成 12 年度において 56,722 人が受診し、疑いを含めがん発見率は 113 例あり、このうち早期がんは 48 例であった。

山口県の受診率は、全国を 3 ~ 4 % 上回っており、平成 12 年度においては 15.8% である。受診者数については、集団検診において昭和 62 年度以降減少し 33,444 人(平成 12 年度)となっているのに対し、個別検診においては増加傾向を示し 23,278 人(平成 12 年度)となっており、全体の 41% を占めるまでになっている。

要精密検査率については、個別検診が集団検診を上回っているのに対し、精密検査受診率については集団検診が個別検診を上回っている。

がん発見率については、個別検診が集団検診を上回っている。

3 大腸がん検診の現状について

平成 12 年度において 60,349 人が受診し、疑いを含めがん発見数は 158 例あり、このうち早期がんは 85 例である。

山口県の受診率は、検診を開始した平成 4 年度から全国を上回りながら上昇しており、平成 12 年度において 16.6% に達している。受診者数については、集団検診において 34,941 人(平成 12 年度)となっており全体の 42% を占めている。

要精密検査率については、平成 6 年度以降横這いを続け 8.8% (平成 12 年度) になっており、精密検査受診率については下降傾向を示し 75.6% (平成 12 年度) になっている。

がん発見率については、一次検診対がん発見率が 0.26%、精検対がん発見率が 3.94% になっている。

4 課題と対応

胃がん検診結果は前年度と同じようだが、間接撮影での見逃し例が多いという結果が出ており、間接撮影の撮影法、フィルム数、バリウム等について再検討する必要があると考えている。

精度管理の資料の集まりかたは、医療機関での精査の結果票が予防保健協会から個票が各医療機関へ配られ、記入されて戻ってきたものを、がん検診症例調査委員会で3名の個票チェック者が記入漏れなどを調べ、場合によっては再度医療機関にお願いして完全なものとして、現在100%個票は回収されている。これを胃がん部会、大腸がん部会で検討し、問題があれば市町村や読影委員会に通知される。その評価するところで大事なのは「がん登録」で、山口県はかなり成績は良くなっているがまだ多少問題があり、特に発見がんが検診を実際受けている人からなのか、検診でも症状があって医療機関で見つかったもの(中間期がん)なのか分からないため、がん登録調査票をもう少しがん検診の精度をチェックできるものに改めてもらいたい。

◇症例提示◇

「逐年検診で発見された大腸進行がん症例」

1 宇部興産中央病院外科医長 工藤明敏

症例は68歳の男性で便潜血性で注腸透視検査が行われたが異常なしであった。

翌年も便潜血反応陽性で再度のX線検査で上行結腸がんと診断され、結腸右半分切除術が施行され、D3リンパ節郭清、Moderately diff. adenocarcinoma, ss 1y2 v0 n1 + (201)であった。さらに2年後に、局所再発、多発肺移転で化学療法及び放射線療法が行われている。しかし、X線写真を見直すと初回の分割写真の一つに壁の不整がみられるようだった。

平成10年健診センター開設以来13年12月までの便潜血受診者は7,075例で便潜血者は3,433例、約5%であった(職域の受診者が多い)。

平成13年の便潜血受診者は2,469例で、陽性者は158例6.5%であった。

平成13年便潜血者158例(男117人、女41人、平均年齢53.2歳)の受診状況を検討し、胃

及び大腸の検査は38例、胃のみ112例、検査なし8例で、胃及び大腸の検査を受けた38例のうち、28例74%は胃または大腸に何らかの疾患を有した。そのうちカルチノイドを含む悪性疾患は14例であった。

便潜血反応は有意義な検査であり、上部および下部消化器管の検査が望ましい。

2 成蹊会岡田病院理事長 村田武穂

70歳の女性で2年前の便潜血は陰性で、次の年は交通が不便のため受診せず、次の年に便潜血が2回とも陽性であったが、自覚症状、貧血はなく注腸透視でAnalから数cmの部に腫瘤様陰影があり、CFで潰瘍を有する腫瘤が見られ、切除したが浸潤型45mm×20mm 分化型腺がんss v1 1y0でmetaもなく再発もない症例で逐年検診ができなかったが良好な経過と思われる。

3 山口大学医学部第一外科講師 野島真治

症例1は65歳の男性で平成6年8月、7年8月検診で便潜血陽性で注腸透視を行うも異常を指摘されず、その後排便時の下血、残便感が出現し、7年12月の再注腸透視で直腸がんが発見されたが、4か月前のX線検査でも狭窄らしき所見がある。

Low anterior resectionを行い、4cmの潰瘍を有する腫瘤で Moderately diff. Adenoca. 1y1, v1, ss, n1(+), PO, HO, M(-) Stage aであった(存命中)。

症例2は79歳男性で平成3年11月検診で便潜血陽性でCFが施行されたが異常は指摘されず、その後平成10年12月便潜血陽性でCFが行われたが異常は指摘されなかった。翌11年10月再び便潜血陽性のためCFを施行し肝彎曲部に1型の結腸がんが発見された。Partial resection of tranverse colonで3cm弱の扁平隆起型のがんで、Well, diff, Adenoca, 1y1, vo mp, n(-), PO, HO, M(-) Stage 1であった。現在も元気である。

検診後の精査は大腸内視鏡検査で施行されたが、振り返ってみると、病変の場所が肝彎曲部内側で観測時接線方向で見落とされたと思われ、X線検査の併用も場合によっては必要と考えられる。

(座長から)

1 集検発見大腸がんの予後不良例としては、便潜血検査偽陰性大腸進行がんの特徴は右側大腸に多く、低分化型腺がんの比率が高く(群馬県立がんセンター) 発見経緯別にみた5生率について偽陰性で、逐年発見は91.1%、中間期がんで76.0%、精検未受診・精検偽陰性で81.1%との報告があり、逐年検診が大切である。

(福井県健康管理協会)

2 陥凹型がんを診断するには無症状の人やFOBT陽性者を積極的に大腸内視鏡検査することが必要で、理由として、cは便潜血反応が陰性で2cm以下の小さな進行がんの陽性率は46%にすぎない。(工藤進英)

(以上 藤本茂博記)

◇特別講演◇

「胃X線読影医育成の問題点と対策～特に、ドック(直接X線)胃がん検診見逃し例からみた～」

北海道厚生連札幌厚生病院消化器科主任部長
今村哲理

昨秋、京都で開催された2001年日本消化器関連学会週間(DDW - Japan2001)の中の、第39回日本消化器集団検診学会大会(丸山雅一会長)では、「胃がん検診におけるX線読影医の育成」と題したワークショップが設けられ、演者の今村先生は胃がん検診の見逃し例を読影医の読影歴と検討会でのActivityの観点から発表された。今回の講演は、同ワークショップに参加された周東総合病院岡崎院長のご推薦で実現した。以下、その要約を記す。

このワークショップでは、高濃度バリウムの採

健診センター医バリウムルーチン撮影 FULL AUTO

No	Fomat	撮 影 体 位	Density
1	縦2分割	食道二重造影 上部	+2
		食道二重造影 下部	+2
2	横2分割	前壁二重造影	-1
		後壁二重造影第1斜位	+1
3	全角	後壁二重造影正面像	+1
4	横2分割	右側画像	+1
		後壁二重造影第2斜位	+1
5	全角	腹臥位充満像	-2
6	横2分割	腹臥位第2斜位像(C領域)	0
		背臥位第2斜位像(C領域)	0
7	全角	立位充満正面図	-2
8	4分割	圧迫像	-2

用と X 線撮影標準化の見直しがなされたにもかかわらず、平成 10 年度の胃がん発見率が 1%にとどまり、撮影面での成果が精度向上に繋がらなかった原因と対策について検討がなされた。

全国では、年間約 600 万件の胃がん検診が実施されているが、一般的な傾向として最近の若い先生方は X 線撮影への興味が薄れ、雑誌「胃と腸」でさえ「胃がんの診断に X 線検査は不要か」と題した特集が組まれる始末である。そのため X 線技師との協調性が低下し、これまで培ってきた術者と技師の構築の崩れが懸念される。札幌厚生病院消化器科においても、X 線撮影と内視鏡検査の日は 1 対 10 であり、これは 30 年前とまったく逆転している。

1 病院の胃がん検診体制の内容

撮影は図に示した様式で行い、10 名の医師が読影している。道央地区と函館管内では年間約 3 万件の間接撮影と 4 万 5 千件の直接撮影があり、そのうち札幌厚生病院はそれぞれ 8 千件と 1 万 5 千件を受け持っている。

2 検診の成績

3 年間で 47,542 件の直接撮影を行い、8,126 件を精密検査した。精検率は 17%である。そのうち 62 例に癌を発見し、発見率は 0.13%でほぼ全国平均と一致した。前年度の見逃し例は 15 件あり、そのうち 9 例には確実に所見を認めた。9 例のうち m 癌は 5 例、sm 癌は 4 例であった。

3 前年度見逃し例からみた読影医の読影歴と検診会での Activity との関連

週 1 回の読影会・症例検討会と月 2 回の病理医

を交えた検討会に加え、月 1 回の北海道全域での検討会を実施しているが、見逃し例の多い医師は読影歴の短い医師、あるいは検討会への出席率の低い医師であった。フィルムのダブルチェックを行って見逃しを防止すると共に見逃し例を検討して見逃し医にフィードバックすることが重要である。また、切除標本にバリウムを入れて撮影し、X 線フィルムとの突き合わせをする事や病理組織所見と対比させる事も大切である。

まとめ：日本の X 線診断技術は世界一である。最後に丸山雅一氏(早期胃癌検診協会理事長)が、消化器集団検診学会雑誌の巻頭言で書いておられる次の一文を紹介して講演を締括られた。

「胃癌の検診は X 線診断によって行うものであり、内視鏡が癌を見逃しやすいという事実は HOSOKAWA ら (Eudoscopy33 : 301 ~ 352 2001) により日本から世界に向けて発信されている。」

Retrospective の読影で小さなフレックの見落としが判明した先生方には申し訳ないが、演者も述べておられるように、身内を評価するという気の重いテーマを胃癌検診の精度向上への情熱で乗り切られたのは見事という他はない。若い医局員や私のようなマンネリ化しそうな中年医師にとってぜひ拝聴すべき講演であった。

(以上 青山 栄記)

病・医院経営をあらゆる面からサポートします。



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社

コンサルティング事業本部直通

0120-33-7613
ホームページアドレス <http://www.sogo-medical.co.jp>

- 山口支店 / 〒754-0014 山口県吉敷郡小郡町高砂町1番8号 安田生命小郡ビル6階 TEL(083)974-0341
- 本社 / 〒810-0001 福岡市中央区天神二丁目14番8号 福岡天神センタービル16階 TEL(092)713-7611
- 支店・営業所 / 全国26カ所
- 薬局 / 全国91店舗 (FC 1店舗含む)

東証一部上場 証券コード：4775

理事会 第 21 回

と き 3 月 7 日 午後 5 時～7 時 20 分

ひ と 藤井会長、柏村副会長、藤原専務理事、
上田・東・木下・小田・藤野・山本各常任理事、
吉本・三浦・廣中・濱本・佐々木・津田各理事、
末兼・青柳・小田各監事

◇協議事項◇

1 理事の会務分担について

平成 14 年度からの会務分担を決定した。

2 平成 13 年度事業報告について

3 平成 14 年度医学功労賞被表彰会員の選考について

生涯教育委員会の推薦を受けて協議の結果、吉南医師会の米光 洋先生を被表彰者に決定。

4 事務局の職制改編について

このことについて協議し、3 月 25 日から 4 課制による業務を開始することを決定。

5 「保険者による直接審査」の実証実験について

某健保組合において IT を活用した組合による直接審査実施の動きがあり、このことについて該当郡市医師会、県医師会、日本医師会の連名により、この企画を撤回するよう申し入れを行った。

◇人事事項◇

1 山口県予防保健協会役員の推薦について

藤井会長、上田常任理事を予防保健協会の理事に推薦することを決定。

◇報告事項◇

1 郡市医事紛争担当事協議会・情報提供協議会について (2 月 21 日)

平成 13 年度受付の事故報告ならびに事故未然報告を行い、この中で「リピーター」の問題について触れた。複数の事故報告を行っている医療機関の事例のほとんどが医師無責であり、医療機関と患者間のコミュニケーション不足の可能性もあることを指摘した。

インフォームド・コンセントについて 2 事例を挙げ説明した。新しい技術を治療として採用したいという意志が強いとき、患者を新しい治療に誘導する傾向があり、その際には相手が十分納得したことの確認を取る、またどういう説明をしたかを記録に残してほしいと述べた。

平成 13 年度受付の窓口相談事例を報告した。
(吉本)

2 地域医療計画委員会について (2 月 21 日)

「これからの地域医療・介護の提供体制を考える」として、地域リハビリテーション体制について都志見病院の村田秀雄先生から、介護保険をめぐる最近の動向として山口県介護保険室の大窪室長から、病診連携の取り組みとして宇部興産中央病院の西嶋先生からそれぞれ説明いただいた。

(津田)

3 21 世紀未来博協会総会について (2 月 21 日)

3 月末をもって解散・決算報告がされた。(藤井)

4 支払基金幹事会について (2 月 22 日)

アウトソーシング及び定員・組織の見直しについて、レセプト電算処理システム普及対策ブロック会議の設置について報告があった。

平成 13 年 12 月医科診療報酬の支払状況は、対前年同月比 96.2%。(藤井)

5 山口地方社会保険医療協議会について

(2 月 22 日)

委員の交代等が行われた。(藤原)

6 都道府県生涯教育担当事連絡協議会について

て (2 月 22 日)

平成 12 年度の生涯教育制度の申告集計結果が報告された。山口県を含む 38 都道府県が一括申告方式による申告をしている。山口県の申告率は 58.1% で全国 30 位。

インターネットを利用した生涯教育のデモンストレーションが行われた。

2 道県から事例報告が行われた。(三浦)

本号「都市生涯教育担当理事協議会」に詳細を掲載。

7 日医主催「医の倫理」シンポジウムについて (2 月 23 日)

日本で医師に懲戒処分を行うのは医道審議会だけであるが、弁護士会を例に挙げて医師会が注意・警告をする体制を作っていく必要があるとの結論であった。(東)

8 体験学習【脳神経外科】について (2 月 24 日)

山口大学医学部脳神経外科研究室の担当により行われた。出席者 30 名。(上田)

9 山口県医療審議会医療法人部会について (2 月 25 日)

医療法人の設立認可 7 件および解散 1 件を認可した。(藤井)

10 都道府県共同利用施設担当理事連絡協議会について (2 月 27 日)

医師会共同利用施設をめぐる最近の動向として西島常任理事から説明が行われた。全国で 81 の医師会立の病院があり、このうち地域医療支援病院が 38。そのほか検診センター 42、検査センター 64、訪問看護ステーション 527、ホームヘルプステーション 48、このうちホームヘルプステーションが増加している。

医師会立共同利用施設の運営状況に関する事例報告が行われた。この中で九州地区の医師会立病院の経営分析が日医総研の川越主席研究員から報告された。1995 年～1999 年の 5 年間の九州地区 20 医療機関を分析し、平均売上高 22 億円、うち 3 地域医療支援病院の売上高はいずれも 40 億円以上。(三浦)

本号に詳細を掲載。

11 保険委員会 (2 月 28 日)

平成 13 年度保険指導の結果・問題点、平成 14 年度の指導方針について協議した。(木下)

12 医事紛争対策委員会について (2 月 28 日)

3 例について検討。(東)

13 医事紛争対策小委員会について (3 月 2 日)

1 例について検討。(東)

14 診療情報提供推進委員会について (3 月 2 日)

今年度の事例を報告した。(東)

15 産業衛生学会・朝日医学セミナーについて (3 月 3 日)

シンポジウム、特別講演 3 題を行った。出席者 321 名。(小田)

16 山口県介護実習普及センター運営委員会について (3 月 4 日)

平成 13 年度の山口県介護実習普及センター及び周防大島介護実習普及センター運営事業が順調に実施されたことが報告された。

平成 14 年度事業計画の重点事項は、訪問介護サービスの質の向上、研修と相談支援体制の充実、障害者の福祉サービスの充実。新規事業としては、福祉用具ならびに住宅改修の活性・広域支援事業として相談体制の整備、ネットワークのための会議の開催。また、教育委員会と連携を図り、小学生の体験実習を促す。(津田)

17 編集委員会について (3 月 7 日)

会報のレイアウト、掲載予定記事、ホームページのコンテンツ、二次医療圏座談会(仮称)について協議した。なお、今回の診療報酬改定における整形外科診療所への影響について委員から説明があり、このことについて県医のメーリングリストで会員に情報を流すこととした。(吉本)

18 会員の入退会異動について

19 老人保健事業への「肝炎ウイルス検査」の導入について

県の行う標記事業について郡市医師会に周知を行うこととした。

1 理事長・副理事長・常務理事の互選について

2 全医連理事会について

2月22日(金)東京都医師国保組合において開催され木下常務理事が出席。平成14年度事業計画、歳入歳出予算、役員を選出、代議員会の運営等について協議した。

医師国保理事会 第12回

とき・ひと 本会と同じ

会員の動き

- 平成 14 年 2 月・3 月受付分 -

入会

郡 市	県・日	氏 名	診療科	医 療 機 関 名 等
萩 市	2 月・ A2	白 井 伸 一	循	都志見病院
防 府	1 ・ A2	光 山 博 巳	整	光山医院
防 府	1 ・ A2	池 内 克 彦	児・アレ	和田内科・池内こどもクリニック
岩 国 市	2 月・ -	高 野 尚 史	外	岩国市医療センター医師会病院
山口大学	3 ・ A2	阿 武 孝 敏	内	山口大学医学部内科学第三

退会

郡 市	氏 名	備 考
萩 市	西 山 慶	都志見病院より
防 府	清 水 英 雄	米沢記念桑陽病院より
岩 国 市	岩 崎 洋 美	いしい記念病院より
岩 国 市	林 田 稔	岩国市医療センター医師会病院より
柳 井	川 崎 浩 三	厚生連周東総合病院より
山口大学	上 野 富 雄	外科学第二より
山口大学	中 野 博 孝	耳鼻咽喉科学より
山口大学	高 山 尚 子	産婦人科学より
山口大学	河 岡 徹	外科学第二より

異動

郡 市	氏 名	異動事項	備 考
下 関 市	伊 藤 正 治	新規開業	いとう脳外科・外科クリニック(脳神外・外・神内)【下関市立中央病院より】
山 口 市	小 泉 明	新規開業	小泉小児科(児・アレ)【山口赤十字病院より】
山 口 市	重 本 和 弘	新規開業	おさばファミリークリニック(内・外・循)
防 府	光 山 医 院	所 在 地	防府市今市町 21-15
防 府	光 山 哲 生	勤 務 先	光山医院【済生会山口総合病院より】
防 府	三 村 寛	勤 務 先	米沢記念桑陽病院【山口県立中央病院より】
防 府	和田内科・池内こどもクリニック	施設名称	和田内科医院より
美 祢 市	白井クリニック	所 在 地	美祢市於福町下 2735-8

「会員の声」原稿募集

山口県医師会では、開かれた医師会を目指し、各担当者を中心に積極的に諸事業に取り組んでいるところですが、会報ではその一環として自由投稿による「会員の声」欄を設け、広く会員の声を募集し随時掲載しています。

つきましては、下記によりお気軽にご投稿ください。

なお、「いしの声」「勤務医部会」は従来どおり編集委員会から依頼した原稿で継続いたします。

記

内 容 規制なし

字 数 1,500字以内

投稿先 山口県医師会 広報係



病医院のニーズにあった医事業務の提供

(株)ニチイ学館

徳山支店 ☎0834-31-8030

〒745-0034 徳山市御幸通り1-11 新興ビル6F

↓
 日常業務(総合案内・料金計算・初診・入院受付等)
 保険請求事務(レセプト作成・集計・点検・総括)
 コンピュータ関連業務(オペレータ等)
 医事コンサルティング(職員教育、指導等)
 ヘルスケア事業(介護サービス・ヘルスケア用品販売)

本社 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 全国12支社82支店

お知らせ

組合員証の無効について

保険者
厚生労働省共済組合

保険者番号
31170194

被保険者氏名
安田幸正

被保険者番号
1300078

よき日和無心の刻や春めきて
立春や故郷の銘菓に友偲ぶ
春浅し子との別れや瓦そば
早春や岩風呂の湯に夕陽さす
絲遊やペリカン空に次ぎつぎに
たおやかな枝張り淡き伊予みつき
春色の溢るる花籠回復期
祈りつつ折りしと使いの紙雛
庭下駄にこぼれ散りくる梅の雨
筆太に雛の一字の暖簾ゆれ
故郷に吹雪し散れる雪柳
花好きの母に供へし濃山吹

早春
うすらひ句会

根木 京子
和田千賀子
三浦 郁恵
尾中 福恵
小嶋 英幸
藤田 一穂

ご案内

ドクターズテニス大会

とき 5月19日(日)午前9時~
ところ 山口市
山口サングリーンテニスクラブ

会費 8,000円
ダブルス
雨天決行

連絡先 藤山医院(藤山哲男)
TEL 089-923-3040 FAX 083-923-3043

お知らせ

施設の賃貸契約物件について

所在地 岩国市中津町 1-20-28
(旧・湊谷眼科医院)
医院・付属施設の概況
建物 約90坪 鉄骨コンクリート2階建
1階(45坪): 受付事務室・待合室・診察室・検査室・検査設備
2階(45坪): 手術室・病室4室(最大7人まで入院可)・浴室・看護婦待機当直室
駐車場 自院駐車場 7台駐車可
現在賃借中の駐車場 6台駐車可
その他 眼科に限らず何科でも可。
湊谷家に医師後継者はいない。
お問合せ先 岩国市医師会事務局
0827-21-6135 FAX0827-22-9218

EPA製剤 イコサペント酸エチル・軟カプセル剤

エパデール カプセル300 指定医薬品

エパデールS300/S600 指定医薬品 **新発売**

※【禁忌】【効能・効果】【用法・用量】【使用上の注意】等の詳細は添付文書参照をご参照下さい。



持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
電話(03)3358-7211(代) 千160-8515

健保適用

